令和７年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 教授
氏名： 清水　享

研究課題名	東アジア各地における祭祀・儀礼・経典など多様な文化についての総合的研究
研究目的及び研究概要	本年度も2方面からの研究を進めた。 ①彝族における祭祀・儀礼・経典についての総合的研究 　中国四川省に居住する彝族の祭祀活動と独自の彝文教典テキストなどから言語、文化、社会、歴史について、学際的な手法により総合的に分析し解明する。 　本研究では彝文教典テキスト、口承資料などから教典テキストとピモの祭祀活動の歴史的変化、文化変容、社会的役割の変遷などを歴史学や文化人類学などの視点から、多角的に把握し、その実態や構造などを総合的に明らかにする。また彝語によることわざであるルビの基礎研究と社会関係の分析、および民族エリートである嶺光電という人物の彝文研究活動などの分析考察も進める。 ②博多祇園山笠の祭礼についての総合的研究 　福岡市の年中行事である博多祇園山笠について学際的な視点から、参与観察によるフィールド調査を進め、歴史的、文化的、社会的な意味づけや構造について分析考察し、東アジアの周縁部である日本の祭祀活動としての分析を進める。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	本年度も前年度から継続して、彝文経典テキストや口承資料および祭祀活動について、学際的な視点から分析・考察を進めた。彝文経典テキストは宗教職能者「ピモ」がこれをまとめており、この経典に基づいて祭祀などの活動を行なう。「ピモ」が行なう祭祀活動と教典テキストについて多角的な視点で分析を進めようとしていたが、中国の政治的な状況などから、現状で四川省での現地調査が厳しいところがあり、進捗状況はやや遅滞してしまった。そのため次年度もこの研究は継続して、進めていきたい。彝族文化研究者との研究動向等の討議、検討、交流も政治的な影響であまり進められなかった。これも次年度は積極的に進めていきたい。彝語口承資料についての比較検討や分析に関しては、彝族のことわざである「ルビ」について、精力的に翻訳を進めることができ、この研究の蓄積は増加した。次年度はこの研究に関する成果の発表を行ないたい。また彝族文化研究を進めた民族エリートの活動についての分析の進捗も十分でなかったが、2026年2月に台湾の中央研究院近代史研究所档案館、国史館、国家図書館において、史料調査を進め、いくつか新たな史料を収集することができ、今後これらの史料を分析した研究を進める予定である。 　昨年度、明石書店『四川重慶を知るX章』において彝族に関する部分の執筆を行なったが、本年度はその担当部分の校正をしたが、編集がかなり遅れており、刊行まで至らなかった。 　博多祇園山笠の研究に関しては、7月に行なわれる祭礼行事に参与観察の形態によるフィールド調査を進めた。博多祇園山笠期間中、博多祇園山笠の行事のなかに身を置き、参与観察を行ない、活動の記録および口述の記録をした。ただまだフィールド調査の成果は十分ではなく、次年度もフィールド調査を継続的に進める予定である。